

小林市文化財調査報告書 第8集

**市内遺跡発掘調査報告書  
西原遺跡発掘調査報告書**

2012年3月

宮崎県小林市教育委員会

## 序 文

この報告書は、小林市教育委員会が平成 23 年度に実施した試掘・確認調査および平成 22 年度に実施した西原遺跡の本発掘調査の報告書です。

近年、小林市では開発事業等の増加により、開発事業と埋蔵文化財保護との調整が重要な課題となっています。平成 4 年度から平成 5 年度にかけて市内の遺跡詳細分布調査を実施し、その結果、450 カ所以上の遺跡が確認されています。小林市教育委員会ではこの結果を受けて、開発区域内の遺跡について事前の試掘・確認調査を実施しているところです。

また、西原遺跡は個人農地改良に伴い、新たに発見されました。縄文時代早期の集石遺構や遺物が確認され、当時の人々の生活文化を知る上で一つの手がかりとなること思います。

本書の刊行を機に、皆様の埋蔵文化財に対する一層の御理解をいただければ幸いです。

最後になりましたが、調査に御協力いただきました関係諸機関並びに地権者の方々、また発掘調査・整理作業に従事していただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成 24 年 3 月

小林市教育委員会  
教育長 佐藤 勝美

# 市内遺跡発掘調査報告書

## 例 言

- 1 本書は、小林市教育委員会が平成23年度に実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。
- 2 調査組織は以下のとおりである。

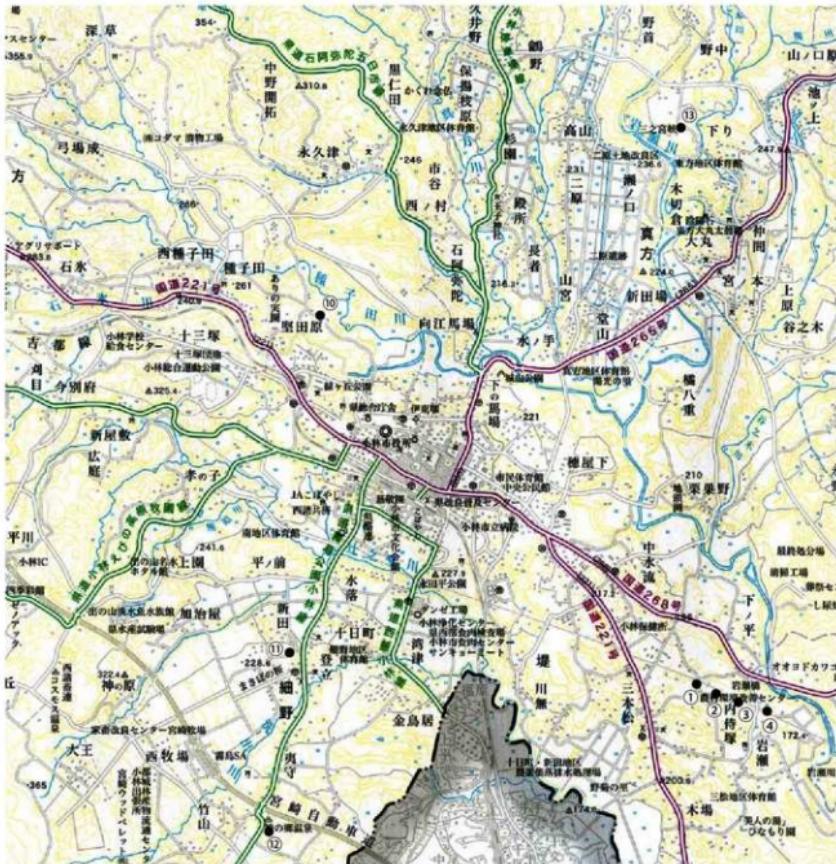
調査主体	小林市教育委員会
教育長	佐藤 勝美
教育部長	久米 勝彦
社会教育課長	大角 良弘
文化財主幹	天辰 より子
庶務担当	山内 里美
調査担当	井上 誠二 増谷 理絵
- 3 本書の執筆及び編集は増谷理絵が行った。
- 4 本書に利用する位置図は建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1、2万5千分の1地形図を複製したものを使用している。

## 本 文 目 次

◆調査の記録	1
1 矢櫃追地区	3
2 後追地区	4
3 後追地区	5
4 下川内地区	6
5 広坪地区	7
6 白坂地区	8
7 中戸地区	9
8 白坂・猿瀬地区	10
9 田野地区	11
10 内屋敷地区	12
11 椿ヶ根地区	13
12 前之原地区	14
13 平才原地区	16

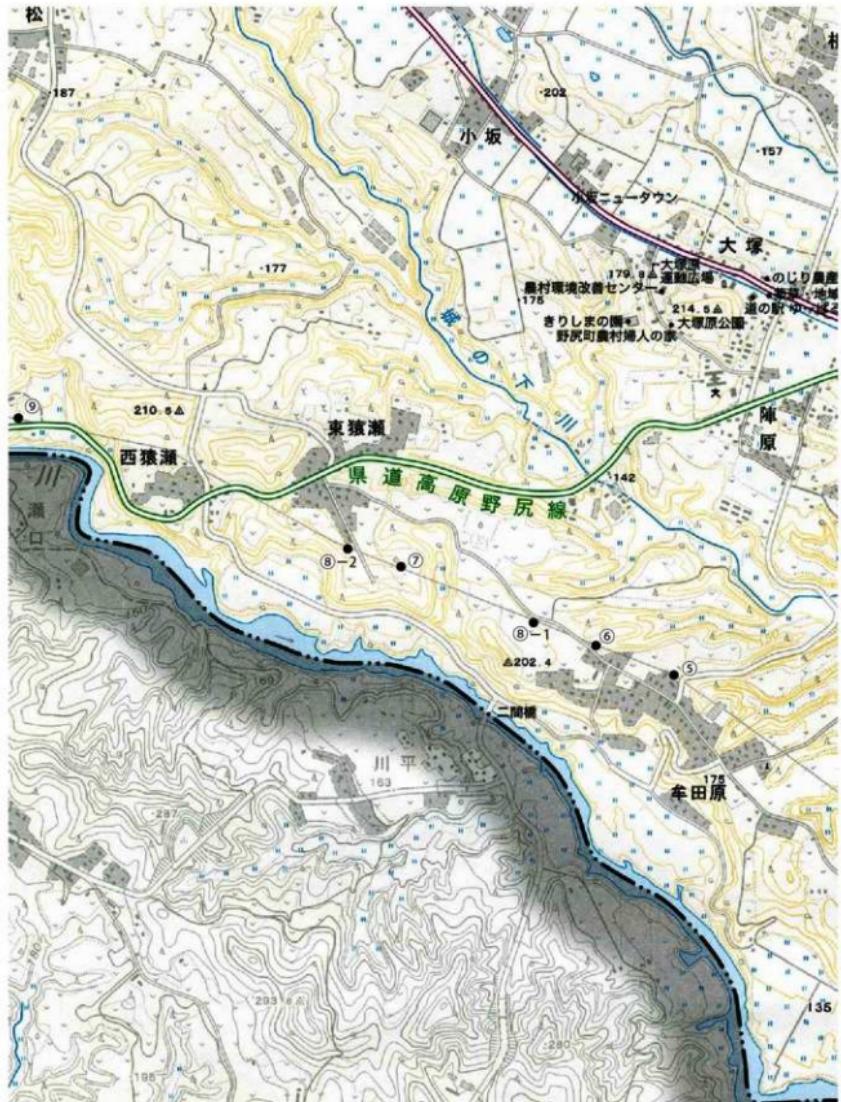
## ◆調査記録

近年、小林市では開発事業等の増加により、各種開発事業と埋蔵文化財保護との調整が重要な課題となっている。今年度は開発事業の予定されていた下川内地区、広坪地区、白坂地区、中戸地区、白坂・猿瀬地区、田野地区、内屋敷地区、椿ヶ根地区、前之原地区、平才原地区の試掘確認調査を行い、遺構および遺物の有無について調査した。なお、昨年度末に実施した矢櫃迫地区、後追地区（2箇所）の調査報告は、平成22年度刊行分に間に合わなかったため、今年度の報告書に掲載している。



①矢櫃迫地区 ②後追地区 ③後追地区 ④下川内地区 ⑤内屋敷地区 ⑥椿ヶ根地区

⑦前之原地区 ⑧平才原地区



⑤ 広坪地区 ⑥ 白坂地区 ⑦ 中戸地区 ⑧-1 白坂地区 ⑧-2 猿瀬地区 ⑨ 田野地区

## 1 矢櫃迫地区（小林市堤字矢櫃迫）

### 〔位置と環境〕

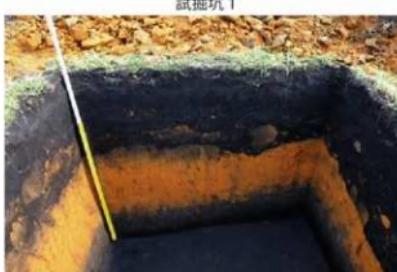
調査地は畑地で、市の南部に位置する。調査地の北側には古墳時代の地下式横穴墓（小林町古墳）が確認されており、県指定史跡となっている。

### 〔調査に至る経緯〕

堤地区では九州電力株式会社による鉄塔建設が計画されていた。九州電力の鉄塔老朽化のため、今後も順次立替の計画があるという。今回の計画予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「内侍塚遺跡群」（弥生・散布地）の範囲内であったため、事業者と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を調査するため、試掘確認調査を実施することとなった。

### 〔調査の概要〕

計画予定地内に約 1.5m×1.5m の試掘坑を計 2 箇所設定し、地表面から深さ約 1.5m程度まで人力にて掘削した。その結果、上面削平およびゴボウのトレンチャー跡等の攪乱も受けているが、黒ポク土層が残存していた。牛ノ脛火山灰層下の黒色土上層まで掘り下げたが、遺跡の存在は確認されなかった。



試掘坑 1 土層図

表土	30cm
黒色土	20cm
暗褐色土	20cm
明褐色土	10cm
アカホヤ火山灰層	40cm
牛ノ脛火山灰層	20cm
黒色土	10cm+

試掘坑 2 土層図

表土	30cm
盛土	30cm
アカホヤ火山灰層	40cm
牛ノ脛火山灰層	20cm+
黒色土	10cm+

## 2 後迫地区（小林市堤字後迫）

### 〔位置と環境〕

調査地は市の南部に位置し、矢櫃迫地区の東南方向の畑地である。

### 〔調査に至る経緯〕

矢櫃迫地区と同様、九州電力株式会社による鉄塔建設が計画されていた。今回の計画予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「内侍塚遺跡群」（弥生・散布地）の範囲内であったため、事業者と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を調査するため、試掘確認調査を実施することとなった。

### 〔調査の概要〕

計画予定地内に約 1.5m×1.5m の試掘坑を計 2 箇所設定し、地表面から深さ約 1.2m～1.5m 程度まで人力にて掘削した。その結果、上層は畑地耕作などによる攪乱も受けているが、黒ボク土層も残存していた。アカホヤ火山灰層上面での遺構検出も行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。



試掘坑 1

試掘坑 1 土層図

表土	75cm
黒色土	75cm
暗褐色土	20cm
明褐色土	



試掘坑 2

試掘坑 2 土層図

表土	40cm
黒色土	40cm
暗褐色土	20cm
明褐色土	10cm
アカホヤ火山灰層	20cm+

### 3 後迫地区（小林市堤字後迫）

#### 〔位置と環境〕

調査地は市の南部に位置している。

#### 〔調査に至る経緯〕

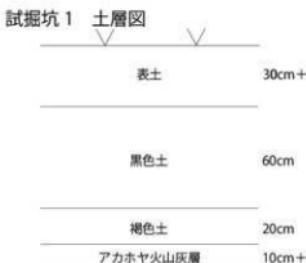
後迫地区では九州電力株式会社による鉄塔建設が計画されていた。今回の計画予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「内侍塚遺跡群」（弥生・散布地）の隣接地であったため、事業者と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を調査するため、試掘確認調査を実施することとなった。

#### 〔調査の概要〕

計画予定地内に約 1.5m×1.5m の試掘坑を計 3 箇所設定し、地表面から深さ約 1.0m～1.5m 程度まで人力にて掘削した。その結果、上面削平およびゴボウのトレチャーヒー跡等の擾乱も受けているが、黒ボク土層も残存していた。遺物については、周知の埋蔵文化財包蔵地外であったが、黒ボク土層より弥生土器片 1 点が出土した。アカホヤ火山灰層上面での遺構検出を行ったが、遺構は確認されなかった。



試掘坑 1



試掘坑 3



## 4 下川内地区（小林市堤字下川内）

### 〔位置と環境〕

調査地は市の南部に位置する。西侧には大淀川支流である岩瀬川が流れている。現在、調査地の約 500m 南西方向には岩戸神社がある。岩戸神社は堤地区の鎮守として古くから崇敬を集めていた神社で、かつては岩瀬川対岸の野尻町柿川内にあったが、洪水や火災で社殿が失われ、200 年程前に現在の場所に遷座したといわれている。

### 〔調査に至る経緯〕

堤地区では九州電力株式会社による鉄塔建設が計画されていた。計画予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「平瀬遺跡」（縄文・散布地）の近隣であったため、事業者と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を調査するため、試掘調査を実施することとなった。

### 〔調査の概要〕

計画予定地内に約 1.5m × 1.5m の試掘坑を計 2 箇所設定し、地表面から深さ約 1.4m 程度まで人力にて掘削した。その結果、畑地の耕作、ゴボウのトレッチャによってかなりの搅乱を受けているものの、黒ボク土層の残存を確認できた。黒ボク土層以下、牛ノ脛火山灰上層までの調査を行い、アカホヤ火山灰層上面、牛ノ脛火山灰層上面での精査も行ったが、遺跡の存在は確認されなかった。



試掘坑 1

試掘坑 1 土層図

表土	20cm
黒色土	45cm
黒色土(やや粘質)	20cm
茶黄色土	15cm
アカホヤ火山灰層	30cm
牛ノ脛火山灰層	10cm+



試掘坑 2

試掘坑 2 土層図

表土	40cm
黒色土	40cm
黒色土(やや粘質)	15cm
茶黄色土	15cm
アカホヤ火山灰層	40cm
牛ノ脛火山灰層	15cm+

## 5 広坪地区（小林市野尻町東麓字広坪）

### 〔位置と環境〕

調査地は市の東南部に位置し、現況は畑地である。調査地の北西から東南へ向かって、城之下川が流れ、南側には岩瀬川が流れている。

### 〔調査に至る経緯〕

広坪地区では九州電力株式会社による鉄塔建設が計画されていた。計画予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「広坪遺跡」（時代不詳・散布地）の範囲内であったため、事業者と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を調査するため、確認調査を実施することとなった。

### 〔調査の概要〕

工事予定地内に約1.5m×1.5mの試掘坑を2箇所設け、地表面から深さ約1.5mまで人力で掘削した。その結果、畑地の耕作、ゴボウのトレンチャーによって地表下約1.0mまで擾乱を受けている。上面は削平されているが、黒ボク土層の残存を確認でき、アカホヤ火山灰層上層の暗褐色土で精査を行ったが、遺跡の存在は確認されなかった。



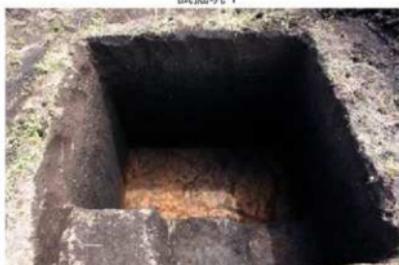
試掘坑 1

試掘坑 1 土層図

表土 55cm

黒色土 60cm

暗褐色土 10cm+



試掘坑 2

試掘坑 2 土層図

表土 60cm

黒色土 60cm

暗褐色土 10cm+

## 6 白坂地区（小林市野尻町東麓字白坂）

### 〔位置と環境〕

調査地は市の東南部に位置し、現況は畑地である。調査地の北側は谷となっており、急に落ち込む地形となっている。南方には岩瀬川が北西から東南へ向かって流れている。

### 〔調査に至る経緯〕

白坂地区では九州電力株式会社による鉄塔建設が計画されていた。計画予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「境ヶ谷第2遺跡」（弥生・古墳・近世・散布地）の範囲内であったため、事業者と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を調査するため、確認調査を実施することとなった。

### 〔調査の概要〕

工事予定地内に約1.5m×1.5mの試掘坑を2箇所設け、地表面から深さ約1.5mまで人力で掘削した。その結果、畑地の耕作、ゴボウのトレンチャーによって地表下約1.0mまでかなりの擾乱を受けていた。耕作土に土器・磁器小片が見られ、アカホヤ火山灰層上面、牛ノ脛火山灰層上面での精査を行ったが、遺構は確認されなかった。



試掘坑1

試掘坑1 土層図

表土	40cm
黒色土	60cm
アカホヤ火山灰層	50cm
牛ノ脛火山灰層	



試掘坑2

試掘坑2 土層図

表土	35cm
黒色土	50cm
暗褐色土	15cm
明褐色土	10cm
アカホヤ火山灰層	

## 7 中戸地区（小林市野尻町東麓字中戸）

### 〔位置と環境〕

調査地は市の東南部に位置し、現況は畑地である。南方には岩瀬川が北西から東南へ向かって流れている。

### 〔調査に至る経緯〕

中戸地区では九州電力株式会社による鉄塔建設が計画されていた。計画予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「中戸遺跡」（縄文・古墳・散布地）の範囲内であったため、事業者と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を調査するため、確認調査を実施することとなった。

### 〔調査の概要〕

工事予定地内に約1.5m×1.5mの試掘坑を2箇所設け、地表面から深さ約1.5mまで人力で掘削した。その結果、黒ボク土層の残存が認められ、アカホヤ火山灰層上面での精査を行い、牛ノ脛火山灰層及び牛ノ脛火山灰層下の黒色土まで掘削したが、遺跡の存在は確認されなかった。



試掘坑 1



試掘坑 2

試掘坑 1 土層図

表土	30cm
黒色土	30cm
暗褐色土	10cm
暗褐色土	10cm
アカホヤ火山灰層	45cm
牛ノ脛火山灰層	15cm
黒色土	10cm +

試掘坑 2 土層図

表土	40cm
黒色土	50cm
暗褐色土	10cm
暗褐色土	10cm
アカホヤ火山灰層	30cm
牛ノ脛火山灰層	

## 8 白坂・猿瀬地区（小林市野尻町東麓字白坂・猿瀬）

### 〔位置と環境〕

調査地は市の東南部に位置し、現況は畠地である。

### 〔調査に至る経緯〕

白坂地区、猿瀬地区では九州電力株式会社による鉄塔建設が計画されていた。白坂地区の計画予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地「境ヶ谷第2遺跡」（弥生・古墳・近世・散布地）の隣接地、また、猿瀬地区的計画予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地「中戸遺跡」（縄文・古墳・散布地）の隣接地であるため、事業者と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を調査するため、試掘調査を実施することになった。

### 〔調査の概要〕

白坂地区では、工事予定地に2箇所の試掘坑を設定し、地表下0.9mまで人力による掘削を行った。その結果、客土しか認められず、地元住民によると、以前畠地の土の入れ替えを行つており、客土が相当な深さまで入っているとのことだった。

猿瀬地区では、工事予定地内に約1.5m×1.5mの試掘坑を2箇所設け、地表面から深さ約1.5mまで人力で掘削した。その結果、黒ボク土層の残存が認められ、アカホヤ火山灰層上面での精査を行い、牛ノ脛火山灰層下の黒色土まで掘削したが、遺跡の存在は確認されなかった。



白坂地区試掘坑2

白坂地区試掘坑2 土層図

表土	20cm
造成土	20cm
造成土	40cm
造成土	10cm+



猿瀬地区試掘坑2

猿瀬地区試掘坑2 土層図

表土	20cm
黒色土	40cm
暗褐色土	10cm
アカホヤ火山灰層	40cm
牛ノ脛火山灰層	15cm
黒色土	20cm+

## 9 田野地区（小林市野尻町東麓字田野）

### 〔位置と環境〕

調査地は市の東南部に位置し、現況は水田である。調査地の北西方向には標高約320m～350m程度の山々が連なっており、南方は西から東へかけて岩瀬川が流れている。近隣住民によると、調査地より北側の一段高い部分からは、以前遺物が多数出土したとの話であった。

### 〔調査に至る経緯〕

田野地区では九州電力株式会社による鉄塔建設が計画されていた。計画予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「田野遺跡」（時代不詳・散布地）の範囲内であったため、事業者と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を調査するため、確認調査を実施することとなった。

### 〔調査の概要〕

工事予定地内に約1.5m×1.5mの試掘坑を1箇所設け、地表面から深さ約1.1mまで人力で掘削した。その結果、地表下約1.0mで長辺10cm～20cmほどの石を多量に含んだ層に到達し、調査終了とした。遺跡の存在は確認されなかった。



調査地



試掘坑 1

試掘坑 1 土層図

表土	50cm
黒色土	30cm
暗褐色土	15cm
黄土	10cm
大小石混じりの層	20cm

## 10 内屋敷地区（小林市真方字内屋敷）

### 〔位置と環境〕

調査地は小林地区の北西部に位置する。現況は畠地である。

### 〔調査に至る経緯〕

調査地では市建設課による市道改良工事が計画されていた。計画予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「種子田遺跡群」（縄文・弥生・散布地）の範囲内であったため、市建設課と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を調査するため、試掘確認調査を実施することとなった。

### 〔調査の概要〕

予定地に  $1.5m \times 2m$  の試掘坑を 1 箇所、 $2m \times 2.5m$  の試掘坑を 1 箇所設定し、深さ 1.6m ~ 1.8mまで掘削した。

調査の結果、2 箇所とも地表面より深さ 1.6mあたりでアカホヤ火山灰層を検出した。試掘坑 1においては、南側に黒ボク土層の堆積が見られ、遺構の可能性も考えられたが、サブトレーナーを設けて精査したところ、旧地形が南に傾斜しているため、黒ボク土が堆積しているものであると確認できた。

2 箇所の試掘坑ともに遺構および遺物は確認されなかった。



試掘坑 1 土層図	
表土	
黒色土（耕作土）	50cm
黒色土	80cm
暗褐色土	10cm
アカホヤ火山灰層	10cm+

試掘坑 2 土層図	
表土	30cm
黒色土（耕作土）	70cm
黒色土	50cm
暗褐色土	10cm+
アカホヤ火山灰層	

## 1.1 椿ヶ根地区（小林市細野字椿ヶ根）

### 〔位置と環境〕

調査地は小林地区南部に位置し、現況は畠地である。調査地北側には神の原川が流れ、南側には洗出川が流れる。

### 〔調査に至る経緯〕

椿ヶ根地区では市建設課による市道改良工事が計画されていた。計画予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「登立遺跡群」（弥生～古代・散布地）の範囲内であったため、市建設課と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を調査するため、確認調査を実施することとなった。

### 〔調査の概要〕

計画予定地内に約 1.1m×2.1m の試掘坑を計 4 箇所設定し、地表面から深さ約 0.9m～1.5m 程度まで人力にて掘削した。調査の結果、黒ボク土層の残存も確認できたが、ゴボウのトレンチャー等による現代の耕作による攪乱が目立った。縄文早期層まで確認を行ったが、遺跡の存在は確認されなかった。



試掘坑 1

試掘坑 1 土層図

表土	30cm
黒色土	25cm
茶褐色土	10cm
黄茶褐色土	15cm
アカホヤ火山灰層	40cm
牛ノ脛火山灰層	20cm
黒色土	15cm
茶褐色土	10cm+



試掘坑 4

試掘坑 4 土層図

表土	45cm
黒色土	25cm
茶褐色土	10cm+

## 12 前之原地区（小林市細野字前之原）

### 〔位置と環境〕

調査地は小林地区南部に位置している。調査地の北西側には洗出川が流れ、西方には標高約1350mの夷守岳がそびえている。

### 〔調査に至る経緯〕

前之原地区では民間会社による飲料水工場建設が計画されていた。計画予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「前ノ原遺跡群」（縄文・弥生・散布地）の範囲内であったため、埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を調査するため、確認調査を実施することとなった。

### 〔調査の概要〕

予定地にバックホーを用いて9箇所の試掘坑を設定した。調査の結果、各試掘坑でアカホヤ火山灰層が確認できたものの、検出面が北側に向かって下っており検出のレベルは各試掘坑でかなりの違いが見られた。ほとんどの試掘坑でアカホヤ火山灰層上面まで検出し、精査を行ったが遺構は検出できなかった。しかし調査区南端の試掘坑6において、黒ボク土層とアカホヤ火山灰層との間の黒褐色ローム層より掘りこまれている土坑状の遺構を複数基確認した。遺物については、試掘坑8の耕作土中より石鏃が1点出土した。



調査前



試掘坑1

前之原 土層図

表土	30cm
黒色土	40cm
黒褐色土	30cm
暗褐色土	20cm
アカホヤ火山灰層	



試掘坑 2



試掘坑 5



試掘坑 6



試掘坑 6 遺構検出



試掘坑 6 遺構



試掘坑 7



試掘坑 8



試掘坑 9

## 13 平才原地区（小林市東方字野中田）

### 〔位置と環境〕

調査地は小林地区北部に位置している。調査地は標高約240mほどの台地であり、台地の東・南・西側を岩瀬川支流が流れる。

### 〔調査に至る経緯〕

平才原地区では宮崎県西諸県農林振興局による県営畑地帯総合整備事業小林北部第1地区が計画されている。計画予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「平才原遺跡群」（弥生・散布地）の範囲内である。平成20年度には、宮崎県教育庁文化財課による試掘確認調査が実施され、アカホヤ火山灰層上の褐色土層および黒色土層から縄文土器や石器類、また、アカホヤ面より住居跡が検出されている。その後、工事計画範囲に変更箇所があり、埋蔵文化財確認調査が実施されていない箇所があるため、今回確認調査を実施したものである。

### 〔調査の概要〕

計画予定地に1.5m×2mの試掘坑を7箇所設け、いずれも人力で掘り下げを行った。

調査の結果、アカホヤ火山灰層まで耕作により攪乱を受けた場所が多く、ゴボウのトレングチャーメによる攪乱も目立った。アカホヤ火山灰層上の黒色土層が確認できるのはわずかであった。試掘坑2・4・6・7で遺構が確認され、試掘坑2では、アカホヤ火山灰層より65cm掘り下げた暗褐色土層にて集石遺構を検出した。試掘坑4では、アカホヤ火山灰層上で径20cm程度のピット状遺構を検出した。掘立柱建物等の把握のため試掘坑を拡張したところ、同じく径20cm程度のピットが5基、等間隔に円を描く形で検出され、耕作土中より土器片が数点出土した。試掘坑6・7では、アカホヤ火山灰層で東西に延びる溝状遺構が検出された。位置関係から、2箇所の溝状遺構は同一のものと考えられる。幅は90cm程度で深さは15cm～25cm程度で床面の形状は広いU字形である。埋土は黒ボク土で、土器片も出土した。

前回の調査においてもアカホヤ火山灰層面で遺構が確認されており、同時期の遺構である可能性は高く、今後影響のある部分については発掘調査を実施する必要がある。



試掘坑1

試掘坑1 土層図

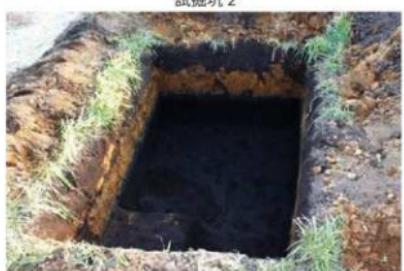
表土	60cm
アカホヤ火山灰層	25cm
牛ノ脛火山灰層	10cm
黒色土	10cm
暗茶褐色土	40cm
茶褐色土	10cm+



試掘坑 2

試掘坑 2 土層図

表土	40cm
アカホヤ火山灰層	15cm
牛ノ脛火山灰層	5cm+
黒色土	10cm
黒褐色土	30cm
暗褐色土	20cm+



試掘坑 3

試掘坑 3 土層図

表土	30cm
アカホヤ火山灰層	30cm
牛ノ脛火山灰層	5cm+
黒色土	10cm
黒褐色土	20cm+



試掘坑 4

試掘坑 4 土層図

表土	60cm
黒色土	20cm
アカホヤ火山灰層	20cm+



試掘坑 5

試掘坑 5 土層図

表土	50cm
アカホヤ火山灰層	10cm
牛ノ脣火山灰層	5cm+
黒色土	15cm
黒褐色土	30cm+



試掘坑 6

試掘坑 6 土層図

表土	50cm
黒色土	15cm+
アカホヤ火山灰層	25cm+



試掘坑 7

試掘坑 7 土層図

表土	20cm
黒色土	35cm
アカホヤ火山灰層	20cm+



試掘坑 2 集石遺構

《引用・参考文献》

『小林市史 第一巻』 小林市 1993

『小林市文化財調査報告書第 7 集 市内遺跡詳細分布調査報告書』  
小林市教育委員会 1994

『野尻町文化財調査報告書第 6 集 野尻町遺跡詳細分布調査報告書』  
野尻町教育委員会 1994

# 西原遺跡発掘調査報告書

～個人農地改良に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～



## 例　　言

- 1 本報告書は、個人農地改良に伴い小林市教育委員会が平成 22 年度に実施した西原遺跡の発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査は畠地所有者の協力を得て、小林市教育委員会が主体となって実施した。
- 3 本書の執筆及び編集は増谷理絵が行った。
- 4 遺構実測は秦広之、有限会社ジバング・サーベイが行った。
- 5 遺物等整理作業は内畠万喜、下野やす子が行った。
- 6 本書に利用する位置図は建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の 5 万分の 1 地形図を複製したものを使用している。
- 7 土層と遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』を使用した。
- 8 発掘調査および報告書作成にあたり、下記の方々にご助言・ご協力をいただいた。  
　　畠地所有者　宮崎県教育委員会文化財課　宮崎市教育委員会
- 9 発掘調査で出土した遺物とすべての記録は小林市教育委員会で保管している。

## 本文目次

第1章 調査の経緯	
第1節 調査に至る経緯	21
第2節 調査組織	21
第2章 遺跡の立地と歴史的環境	
第1節 遺跡の立地	21
第2節 歴史的環境	23
第3章 調査の成果	
第1節 調査の概要	24
第2節 基本土層	25
第3節 遺構	25
第4節 遺物	28
第4章 まとめ	30

## 表目次

第1表 出土土器観察表	28
-------------	----

## 挿図目次

第1図 遺跡位置図	22
第2図 調査区	24
第3図 基本土層図	25
第4図 S I 0 1・0 2 平面図および断面図	26
第5図 S I 0 3・0 4 平面図および断面図	27
第6図 出土遺物実測図	29

## 図版目次

図版1 出土状況	31
図版2 出土状況および出土遺物	32

# 第1章 調査の経緯

## 第1節 調査に至る経緯

西原地区では、畑地所有者による農地改良（天地返し）が予定されていた。所有者が畑を掘削中に縄文土器や石鏃、焼石が出土したことから市教育委員会に連絡があり、周知の埋蔵文化財包蔵地外ではあったが平成21年度に試掘調査を実施した。

試掘調査は、小林市教育委員会が平成22年3月29日～30日の2日間で実施し、その結果、包含層から集石遺構、縄文土器や黒曜石等の遺物が出土した。個人の農地改良によって遺跡の破壊は免れられないので、畑地所有者との協議の末、所有者の協力が得られ、小林市教育委員会を調査主体とした記録保存を目的とする西原遺跡の埋蔵文化財発掘調査を実施した。

調査期間は平成22年4月20日から平成22年4月30日、調査面積は約40m<sup>2</sup>である。

## 第2節 調査組織

調査は小林市教育委員会が行い、平成22年度に本発掘調査、平成22～23年度にかけて出土資料の整理作業、資料検討、調査報告書作成を行った。

調査組織は以下のとおりである。

調査主体	小林市教育委員会
教育長	佐藤 勝美
教育部長	久米 勝彦
社会教育課長	大角 良弘
文化財主幹	天辰 より子
庶務担当	主査 加藤 義和（平成22年度） 主査 山内 里美（平成23年度）
調査担当	委託職員 秦 広之（平成22年度） 主任技師 増谷 理絵

# 第2章 遺跡の立地と歴史的環境

## 第1節 遺跡の立地

西原遺跡は、宮崎県小林市野尻町三ヶ野山字西原に所在する。野尻地区の西部、国道268号線から南東方向に市道を約300m進んだ所に位置し、調査区北側には城之下川が流れ、南方には標高350m前後の山々が連なっている。

小林市野尻町は宮崎県のほぼ中央部に位置し、東西は約18km、南北は4km～7kmで、東西に細長く、南北に短い地形となっている。北は九州山地へ繋がる山々があり、いくつかのシラス台地によって形成されている。河川はいずれも大淀川の支流であり、主な河川は岩瀬川や城之下川、戸崎川、石瀬戸川、秋社川などがあり、岩瀬川は高原町や都城市の境界を東

第1図 遺跡位置図



へ向かって流れている。岩瀬川については、『日本書紀』の景行天皇の項に「石瀬河」という記述が見られる。

## 第2節 歴史的環境

野尻では現在約200カ所の遺跡が確認されている。最も古いのは、紙屋字新村に所在する新村遺跡で、旧石器時代のナイフ形石器が出土し、小林市内の発掘調査の出土例の中でも最古の発見となっている。

西原遺跡と同じ縄文時代早期の遺跡としては、新村遺跡（紙屋字新村）や高山遺跡（紙屋字高山）、東城原遺跡（紙屋）、天ヶ谷遺跡（東麓字天ヶ谷）などがあり、集石遺構や押型文土器などが出土している。

また、野尻内における発掘調査で注目を集めたものとしては、西原遺跡の南西方向1.5kmの三ヶ野山字西柿川内に所在する大萩遺跡があげられる。弥生時代の19基の土壙墓群が発見され、特に、4号土壙墓からは副葬品として、鮮やかな水色をしたガラス製の小玉580個、5号土壙墓からは貝輪、6号土壙墓からはガラス製小玉60個が出土し、この3つの土壙墓に葬られたのはこの地域の人々の中で、首長的な人々であった可能性が推測されている。また、4号・5号土壙墓の直上からは埋葬後に捧げられた供獻土器と思われる長頸壺や高壺、器台などが重なりりようのように発見され、当時の埋葬儀礼の一端を明らかにする遺跡として注目された。また、その後の調査により、土壙墓群のあった台地から南西方向に一段下った台地上に、土壙墓群と同時期の竪穴式の住居跡5基が発見された。さらに、古墳時代の地下式横穴墓群も発見されており、そのうち地下式横穴墓上に墳丘を持つ特異な形態をもつ1基が県指定史跡となっている。

古代においては、野尻は『延喜式』に記載されている日向国十六駅のうち「野後駅」の比定地とされており、古代の官道が通っていたと考えられている。

### 《引用参考文献》

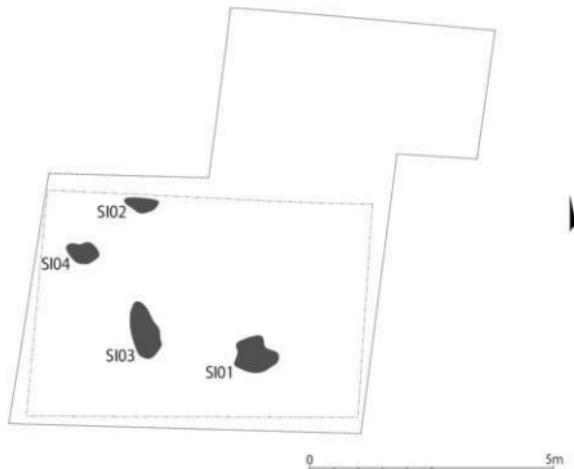
- 『天ヶ谷遺跡』 野尻町教育委員会 1992
- 『大萩遺跡』 宮崎県教育委員会 1975
- 『小林市史 第一巻』 小林市 1993
- 『小林市文化財調査報告書第7集 市内遺跡詳細分布調査報告書』 小林市教育委員会 1994
- 『新村遺跡 高山遺跡 東城原第1・2・3遺跡 紙屋城址遺跡』 野尻町教育委員会 1990
- 『野尻町史』 野尻町 1994
- 『野尻町文化財調査報告書第6集 野尻町遺跡詳細分布調査報告書』 野尻町教育委員会 1994
- 『宮崎県史 資料編 考古2』 宮崎県 1993

## 第3章 調査の成果

### 第1節 調査の概要

調査地は畑地で、以前の造成による痕跡が認められる箇所もあり、表土や周辺畑地にも縄文土器などの遺物が散布している状況である。今回の調査では、畑地所有者が農地改良（天地返し）を予定している約40m<sup>2</sup>の調査を実施した。

重機で表土を剥いだ後、人力で掘り進めていったところ、牛ノ脛火山灰層以下の褐色土層から貝殻条痕文土器や押型文土器などの土器や黒曜石等の石器が出土した。また、縄文時代早期の集石遺構が4基確認された。



第2図 調査区

## 第2節 基本土層

調査地は表土（耕作土）が40cm程度あり、また現代の造成土も見られる。上層を大きく削平されており、牛ノ脛火山灰層下の黒褐色土以下の層からの調査となつた。調査の結果、主にIII層より遺物が確認された。

また、周辺畑地には遺物が多数散布しており、繩文時代後期の遺物が多数みられ、土師器片なども見られる。

I層：表土（耕作土）

II層：褐色土層（耕作土）

III層：黒褐色土層

3～5mm程度のスコリアを多く含む。

下部30cmには白色スコリアを多く含む。

遺物包含層。

IV層：褐色土層

V層：褐色土層

ボラを含む。

VI層：小林軽石層

	▽	▽
I層 表土		22cm
II層 褐色土		21cm
III層 黒褐色土		65cm
IV層 褐色土		30cm
V層 褐色土		15cm
VI層 小林軽石層		15cm

第3図 基本土層図

## 第3節 遺構

試掘調査においても褐色土層から集石遺構の存在が確認されていたが、本発掘調査によつて褐色土層から合計4基の集石遺構を確認することができた。

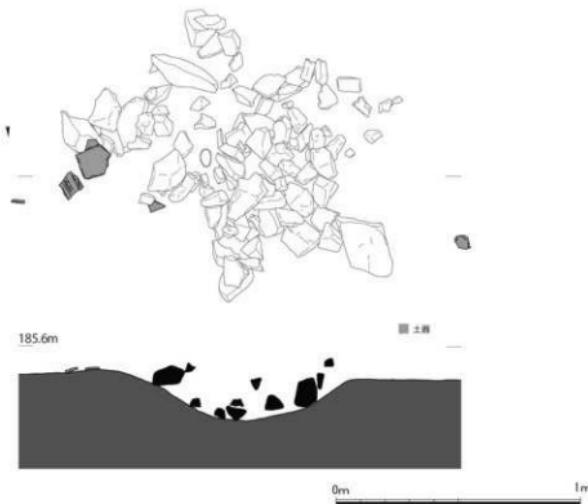
SI01は調査区の東側より出土し、唯一遺物を伴つてゐる。構成されている礫の間、およびその周囲から土器片が出土した。他の集石遺構と比較して、最も構成されている礫が大きいのが特徴である。また、熱を受けた礫の赤化が顕著に見られた。

SI02は調査区の最も北側から出土した。遺構の北側半分は調査区外へと入り込んでおり、遺構の全形は検出していない。直径約130cmの掘り込みをもつ。

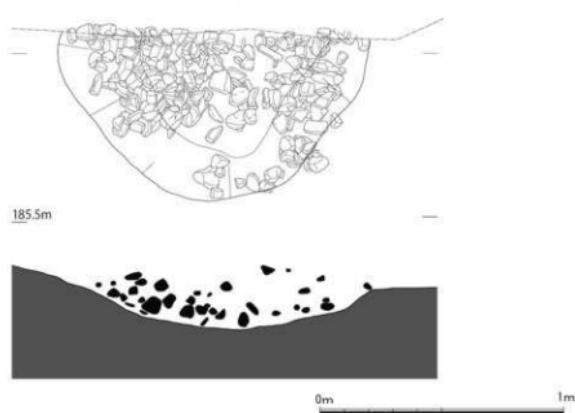
SI03はSI01の西側に隣接して出土した。長径約140cmの不整形橢円の掘り込みを有する。礫は掘り込みの南側半分に集中している。

SI04は、遺構北側が擾乱を受けてゐる。直径約105cmの不整形円形の掘り込みを有し、掘り込み内に礫が重なり合つて出土した。

SI01

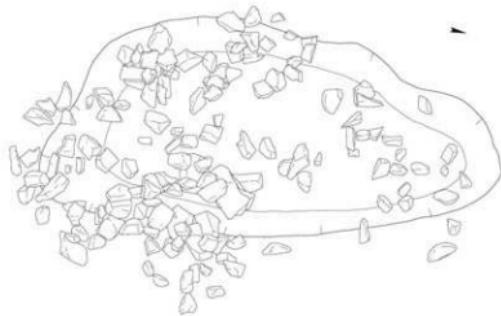


SI02



第4図 SI01・SI02 平面図および断面図

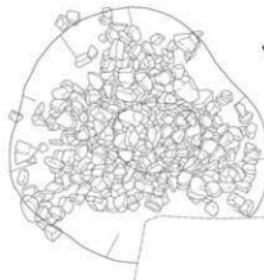
SI03



185.6m



SI04



185.5m



第5図 SI03・SI04 平面図および断面図

## 第4節 遺物

遺物は主に縄文時代早期の遺物が出土した。

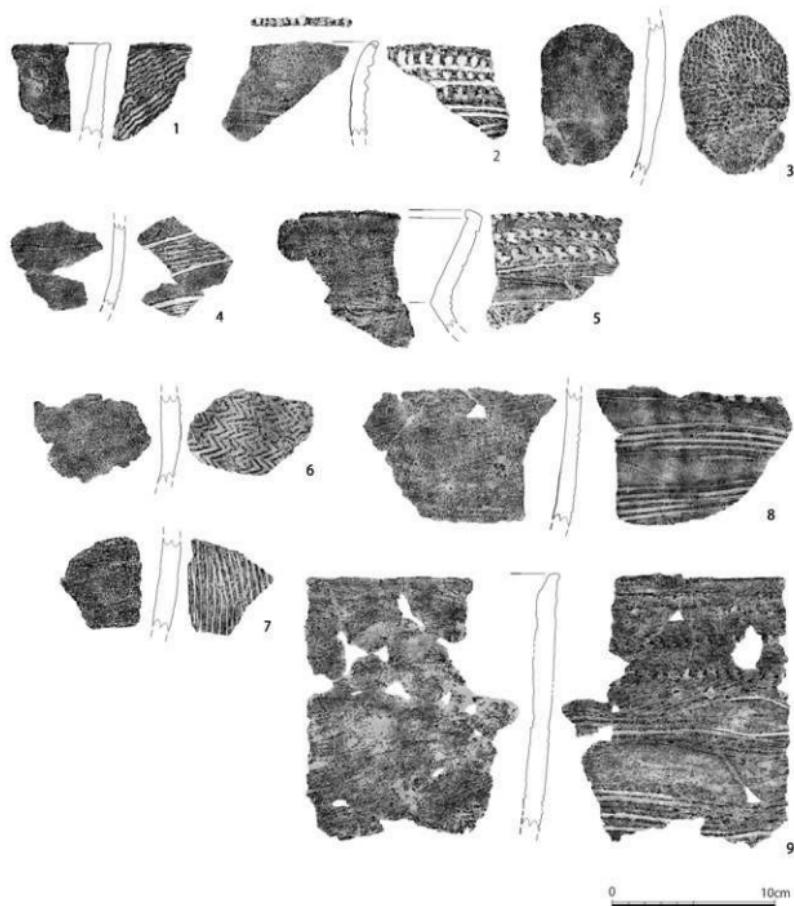
1・2は調査区表土より出土した。1はやや崩れた山形の押型文土器の口縁部である。内面には、指押さえの痕、ナデ調整が施され、口唇部は平坦に仕上げられている。2は口縁部外面に3条の貼り付けの突帯が見られ、口唇部には刺突が見られる。突帯文の下部には貝殻条痕文、内面には丁寧なナデ調整が見られる。

3・4・5はIII層（黒褐色土層）から出土した。3は胴部で、外面に橢円押型文が見られ、内面は所々に指押さえ痕が見られる。やや摩滅している。4は胴部で、外面には沈線で区画された中に撚糸文が施され、内面にはナデ調整が見られる。5は口縁部で、頸部は「く」の字に屈曲している。文様は口唇部および口縁部、頸部下に貝殻腹縁刺突文が連続して施文され、間に沈線も見られる。内面の調整はやや粗雑な印象を受け、また、赤みが強い。

6・7・8・9はSI01から出土した。6は胴部で山形押型文が見られる。7は胴部で、外面は縱方向に撚糸文、内面には横方向のナデ調整が施される。8は胴部で、貝殻による刺突文と横方向の貝殻条痕文が見られる。9は口縁～胴部で、口縁部には3段の貝殻による刺突文が見られ、その下には横方向の貝殻条痕文が施される。内面は粗雑なナデ調整で、口唇部にかけて器壁が若干薄くなるよう仕上げられている。胴部外面には、煤が付着している。

第1表 出土地器観察表

No.	出土位置	種別 器種	部位	調査	色調	備考
1	I層	深鉢	口縁部	(外)ナデ 押型文(山形) (内)ナデ 口唇部	(外)2.5V3/2暗灰黄 (内)2.5V3/2暗灰黄	外油1.2程度黒変
2	I層	深鉢	口縁部	(外)ナデ 沈線 貼付突帯 貝殻条痕文 (内)ナデ	(外)7.5V7/6暗 (内)10V9/4C-25-1橙	貼付突帯
3	Ⅲ層	深鉢	胴部	(外)ナデ 押型文(楕円) (内)ナデ 指押さえ	(外)2.5V7/3淡黄 (内)2.5V7/3淡黄	
4	Ⅲ層	深鉢	胴部	(外)ナデ 沈線 撥糸文 (内)ナデ	(外)10V9/4C-25-1黄 (内)2.5V7/3C-25-1黄	外面煤付帯
5	Ⅲ層	深鉢	口縁部	(外)ナデ 貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文 (内)ナデ	(外)5V9/6橙 (内)5V9/6橙	
6	SI01	深鉢	胴部	(外)ナデ 押型文(山形) (内)ナデ	(外)7.5V7/4C-25-1橙 (内)10V9/3C-25-1黄	
7	SI01	深鉢	胴部	(外)ナデ 撥糸文 (内)ナデ	(外)7.5V7/4C-25-1橙 (内)7.5V7/4C-25-1橙	
8	SI01	深鉢	胴部	(外)ナデ 貝殻条痕文 貝殻腹縁刺突文 (内)ナデ	(外)7.5V7/4C-25-1橙 (内)7.5V7/4C-25-1橙	外面煤付帯
9	SI01	深鉢	口縁部～胴部	(外)ナデ 貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文 (内)ナデ	(外)2.5V6/3C-25-1黄 (内)10V9/4暗灰	外面煤付帯



第6図 出土遺物実測図

## 第4章　まとめ

今回の調査により、縄文時代早期の遺跡が確認された。周知の埋蔵文化財包蔵地外ではあつたが、西原遺跡は畠地所有者の農地改良により新しく発見された遺跡となった。

所有者によれば、隣接する畠地からも多数の遺物が散布しているとのことで、実際踏査してみると、多数の遺物散布が確認できた。表探資料は多く、縄文時代早期土器を初め、打製石斧や磨製石斧、特に縄文時代後期の土器が多く見られ、さらに少量の土師器も見られる。

遺構に関しても、約 40 m<sup>2</sup>と狭い調査区ではあったが、4 基の集石遺構を確認することができた。いずれの集石遺構も同一層からの出土であり、直径は 1m 弱で、礫は熱を受けて赤変したものも見られる。SI02、SI03、SI04 については、構成礫も大きさなど似通っているのに対し、SI01 のみが構成礫 1 個体の大きさが大きく、また遺物を伴っていた。SI01 と他の集石遺構に用途の違いがあるかなどについては不明である。

遺物に関しては、本調査で出土した遺物はごく少量であり、表探資料の方が量的にも多く、良好な資料が多い。調査地の縄文時代後期の層は削平されていたため確認できなかつたが、周辺からの表探資料には後期の土器も多数見られることから、削平以前には上層に縄文時代後期の遺跡が存在していた可能性は高い。本調査時に出土した土器には、楕円・山形押型文や塞ノ神式土器が見られた。また、図化はしていないが、石鏃未製品とみられる遺物も出土している。

今回の調査により、遺跡の存在を知られていなかった地域での所在を確認することができ、本市の歴史を解明していく上での基礎資料となつた。今回の調査は所有者からの一報が発端となり、所有者の御協力があつたからこそ遺跡の記録保存に至つたものである。末尾ながら記して感謝申し上げたい。

### 《引用参考文献》

- 『縄文土器大観 1』 小学館 1989
- 『新村遺跡 高山遺跡 東城原第 1・2・3 遺跡 紙屋城址遺跡』 野尻町教育委員会 1990
- 『野尻町史』 野尻町 1994
- 『野尻町文化財調査報告書第 6 集 野尻町遺跡詳細分布調査報告書』 野尻町教育委員会 1994
- 『宮崎県内の平柄式・塞ノ神式土器集成』 宮崎縄文研究会 1998

図版 1 出土状況



調査区



基本土層



SI01 検出状況



SI02 検出状況



SI02 完掘



SI03 検出状況



SI04 検出状況



SI04 完掘

図版2 出土状況および出土遺物



SI02,04 出土状況



調査地（手前の畠地） 布施の畠地にも遺物が散布している。



西原遺跡出土遺物

# 報告書抄録

ふりがな	しないいせきはつくつちょうさほうこくしょ にしばるいせきはつくつちょうさほうこくしょ
書名	市内遺跡発掘調査報告書 西原遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	小林市文化財調査報告書
シリーズ番号	第8集
編著者名	増谷 理絵
所在地	宮崎県小林市細野300番地
発行年月日	平成24（2012）年3月31日

調査地区名	所在地	調査期間	調査面積	主な出土遺構・遺物	調査要因
矢櫃迫地区	小林市堤字矢櫃迫	H23.3.15	4.5m <sup>2</sup>	なし	鉄塔建設
後迫地区	小林市堤字後迫	H23.3.16	4.5m <sup>2</sup>	なし	鉄塔建設
後迫地区	小林市堤字後迫	H23.3.18	6.75m <sup>2</sup>	土器片	鉄塔建設
下川内地区	小林市堤字下川内	H23.5.16	4.5m <sup>2</sup>	なし	鉄塔建設
広坪地区	小林市野尻町東麓字広坪	H23.7.14～7.15	4.5m <sup>2</sup>	なし	鉄塔建設
白坂地区	小林市野尻町東麓字白坂	H23.7.13～7.14	4.5m <sup>2</sup>	土器片	鉄塔建設
中戸地区	小林市野尻町東麓字中戸	H23.7.15	4.5m <sup>2</sup>	なし	鉄塔建設
白坂・猿瀬地区	小林市野尻町東麓字白坂・猿瀬	H23.7.13～7.15	9.0m <sup>2</sup>	なし	鉄塔建設
田野地区	小林市野尻町東麓字田野	H23.9.7	2.3m <sup>2</sup>	なし	鉄塔建設
内屋敷地区	小林市真方字内屋敷	H23.11.15～11.17	8.0m <sup>2</sup>	なし	市道改良工事
椿ヶ根地区	小林市細野字椿ヶ根	H23.11.29～11.30	9.0m <sup>2</sup>	なし	市道改良工事
前之原地区	小林市細野字前之原	H24.1.11～1.17	602m <sup>2</sup>	土坑状遺構・石罐	飲料水工場建設
平才原地区	小林市東方字野中田	H24.1.30～2.1	22m <sup>2</sup>	集石遺構・溝状遺構・柱穴・土器片	県営畠地帯総合整備事業
西原遺跡	小林市野尻町三ヶ野山字西原	H22.4.20～4.30	40m <sup>2</sup>	集石遺構・土器片・石器	農地改良（個人）

小林市文化財調査報告書第8集  
**市内遺跡発掘調査報告書**  
**西原遺跡発掘調査報告書**

平成 24年 3月

編集・発行 宮崎県小林市教育委員会  
宮崎県小林市細野300番地  
印 刷 こぞの印刷